

# 平成22年度 事業報告書（概要）

（平成22年4月1日から平成23年3月31日まで）

学校法人 奈良学園

## 目次

I. はじめに	P. 1
II. 法人の概要	P. 2～6
1. 沿革	(P. 2)
2. 法人本部及び設置する学校の所在地	(P. 2)
3. 学校・学部・学科等の学生数等の状況	(P. 3)
4. 役員の状況	(P. 4)
5. 評議員の状況	(P. 4)
6. 専任教職員の状況	(P. 4)
7. 学校別の土地及び建物	(P. 5)
8. 全体地図（奈良学園キャンパス位置図）	(P. 5)
III. 事業の概要	P. 6～13
1. ハイライト	(P. 6～8)
(1) 三郷キャンパス（奈良産業大学） カリキュラムと施設の改善	(P. 6)
(2) 高田キャンパス（奈良文化高等学校） 新しい校舎と寮が完成	(P. 6)
(3) 郡山キャンパス（奈良学園中学校・高等学校） 第2期建替え工事が進捗	(P. 7)
(4) 登美ヶ丘キャンパス（奈良学園幼稚園・小学校、 奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校）充実と完成	(P. 7)
(5) 登美ヶ丘キャンパス（奈良文化女子短期大学） 地域交流の進化	(P. 8)
(6) 高田キャンパス（奈良文化女子短期大学付属 幼稚園）通園バスを一新	(P. 8)
(7) 志賀直哉旧居（奈良学園セミナーハウス） 各種講座の開設	(P. 8)
2. 設置校の主な事業と進捗状況	(P. 9～13)
(1) 奈良産業大学	(P. 9)
(2) 奈良文化女子短期大学	(P. 10)
(3) 奈良文化高等学校	(P. 10～11)
(4) 奈良学園中学校・高等学校	(P. 11～12)
(5) 奈良学園幼稚園・小学校・ 奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校	(P. 12～13)
(6) 奈良文化女子短期大学付属幼稚園	(P. 13)
IV. 財務の概要	P. 14～19
1. 最近の投資と資金運用の状況	(P. 14)
2. 平成22年度決算の概要	(P. 15～19)
(1) 資金収支の概要	(P. 15)
(2) 消費収支の概要	(P. 16)
(3) 貸借対照表の概要	(P. 17)
(4) 平成21年度財産目録（概要）	(P. 18)
(5) 監査報告書	(P. 19)

奈良産業大学 教育研究活動等の状況 （大学のページに移動します）

奈良文化女子短期大学 教育研究活動等の状況 （短大のページに移動します）

## I. はじめに

学校法人奈良学園では、平成 20 年度から「奈良学園教育ルネサンス」を標榜し、その根本精神である人間中心主義・教学中心主義・本物一流主義・公正公平主義・安全安心主義にもとづき、6つの改善・改革に取り組んできた。その結果、平成 22 年度までに、1) 総合学園としての体制を再構築する、3) 高田キャンパスの存続・発展を図る、4) 登美ヶ丘キャンパスの開発を完成し発展させる、5) 奈良学園中学校・高等学校の競争力を強化する、6) 安心・安全・公平・公正な教育環境を構築する、について目標の実行もしくは基礎固めが完了したが、2) 高等教育を再編し存続可能な教育機関とする、については未だ具体化していない状況である。

また平成 22 年度からは、26 年度までの 5 カ年にわたる「経営改善計画」に取り組んだ。これは、日本私立学校振興・共済事業団の指導と助言を受けつつ、総合学園としての将来の体制を盤石なものとすることを目指したものであるが、文部科学省による平成 22 年度学校法人運営調査の対象法人となり、実地調査を受けた結果、平成 23 年度から 27 年度までを対象年度とする「経営改善計画」の策定をすることとなった。策定後は新しい計画をもとに改善・改革を継続する。

なお、学校法人奈良学園は、女子教育を発祥の原点とし、女子教育についての基本精神をもって建学の精神を定めたが、その後多様な学校を開設するにあたり、その都度建学の精神を学校ごとに定めている。このため、経営改善計画の策定を機に、学園全体としての将来にわたる教育理念・経営理念・経営目標を以下の通り明確にした。

### 【教育理念】「教育はロマン、夢語るもの」

夢と希望と志を持った前途有為の人材を育成することにより、人類・社会に貢献する。

### 【経営理念】

幼稚園から大学まで、すべての校種を持つ総合学園としてのスケールメリットを生かし、各校種間・各キャンパス間の連携・協力を一層密にすることによって、学園のさらなる発展を期する。

### 【経営目標】

時代や社会の要請に応え、社会の発展に貢献できる、国際性豊かな、オンリーワンの学園づくり

- 1) 人間中心主義 園児・児童・生徒・学生・教職員等全ての学園構成員が大切にされる。人材は学園の宝。
- 2) 教学優先主義 魅力ある教育体制の確立。  
教育内容の充実、教育指導力の向上。
- 3) 本物一流主義 本物志向で一流を目指す。
- 4) 公平公正主義 コンプライアンスの確立。公正な人事と処遇。
- 5) 安全安心主義 教育の根底は子どもの命を守り育む営み。

## Ⅱ. 法人の概要

### 1. 沿革

昭和 36. 3	学校法人中和学園設置認可。
昭和 40. 1	奈良文化女子短期大学教養科及び奈良文化女子短期大学附属高等学校の設置認可。 教養科入学定員 100 人、附属高等学校入学定員 100 人、4 月 1 日開校。
昭和 42. 1	奈良文化女子短期大学附属幼稚園の設置認可。 総定員 180 人、4 月 1 日開園。
昭和 45. 4	学校法人奈良学園に名称変更を行う。
昭和 54. 1	奈良学園中学校、奈良学園高等学校設置認可。 中学校入学定員 90 人、高等学校入学定員 90 人、4 月 1 日開校。
昭和 58.12	奈良産業大学の設置認可。 経済学部経済学科入学定員 120 人、経営学科 120 人、昭和 59 年 4 月 1 日に開学。
平成 19. 4	奈良文化女子短期大学附属高等学校を奈良文化高等学校に校名変更。
平成 19. 6	法人本部を奈良県大和高田市東中 127 番地から奈良県奈良市中登美ヶ丘三丁目 15 番 1 号に移転。
平成 20. 3	奈良学園幼稚園、奈良学園小学校、奈良学園登美ヶ丘中学校設置認可。 幼稚園総定員 155 人、4 月 1 日開園。 小学校入学定員 120 人、中学校入学定員 200 人、4 月 1 日開校。
平成 21. 3	奈良学園登美ヶ丘高等学校設置認可。 入学定員 225 人、4 月 1 日開校。

### 2. 法人本部及び設置する学校の所在地

平成 23 年 3 月 31 日現在

学 校 名	住 所
法人本部	〒631-0003 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良産業大学	〒636-8503 奈良県生駒郡三郷町立野北 3-12-1
奈良文化女子短期大学	〒631-8523 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良文化高等学校	〒635-8530 奈良県大和高田市東中 127
奈良文化女子短期大学附属幼稚園	〒635-8530 奈良県大和高田市東中 127
奈良学園高等学校	〒639-1093 奈良県大和郡山市山田町 430
奈良学園中学校	〒639-1093 奈良県大和郡山市山田町 430
奈良学園登美ヶ丘高等学校	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園登美ヶ丘中学校	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園小学校	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1
奈良学園幼稚園	〒631-8522 奈良県奈良市中登美ヶ丘 3-15-1

### 3. 学校・学部・学科等の学生数等の状況

平成22年5月1日現在

学校名	学部等	入学定員 (募集定員)	収容定員 (募集定員計)	現員	備考
奈良産業大学	法学部	—	—	13	H19.4募集停止
	経済学部	—	—	11	H19.4募集停止
	経営学部	—	—	20	H19.4募集停止
	情報学部	200	800	242	
	ビジネス学部	200	800	444	H19.4設置
奈良文化女子短期大学	幼児教育学科	100	200	84	
奈良文化高等学校	全日制課程 普通科	120 (110)	585 (380)	136	
	全日制課程 衛生看護科	80	240	202	
	全日制課程 衛生看護 専攻科	80	160	111	
奈良学園高等学校	全日制課程 普通科	240	720	659	
奈良学園中学校		220 (160)	660 (480)	474	
奈良学園登美ヶ丘 高等学校	全日制課程 普通科	225 (40)	450 (80)	34	H21.4開校
奈良学園登美ヶ丘 中学校		200 (120)	600 (360)	335	H20.4開校
奈良学園小学校		120	360	280	H20.4開校
奈良学園幼稚園		35	155	133	H20.4開校
奈良文化女子短期大学 付属幼稚園		75 (50)	255 (150)	107	

※入学定員と募集定員が同じ場合は募集定員を省略

4. 役員の状況（平成23年3月31日現在）

※理事定数8人以上12人以内【現員11人】 監事定数2人又は3人【現員2人】

理事長（常勤）	西川 彭	学園長
理事（常勤）	吉井 弘 侑	学校長の互選による
理事（常勤）	藤原 昇	学校長の互選による
理事（常勤）	松田 親 典	学校長の互選による
理事（常勤）	山田 勝 美	学校長の互選による
理事（常勤）	平尾 透	評議員会の選任による
理事（常勤）	佐藤 至 則	評議員会の選任による
理事（常勤）	水野 隆 徳	評議員会の選任による
理事（非常勤）	甘利 治 夫	学識経験者
理事（非常勤）	梅屋 則 夫	学識経験者
理事（非常勤）	中本 勝	学識経験者
監事（常勤）	結城 義 久	
監事（非常勤）	村田 智 之	

5. 評議員の状況（平成23年3月31日現在）

※評議員定数21人以上25人以内【現員25人】

法人職員	平尾 透 勝川育司 松岡雅一 東中章晃 久保 守 古川謙二 福永吉延 角田道代 佐藤至則	学園卒業生	川戸昭人 光安寿一 池田順子 櫻井秀子 小鶴和美 出原雅代 岡下慎太郎 宮坂光行	学識経験者	朝廣佳子 小原壮一 加藤正二 阪本道隆 田村雅宥 西川 彭 橋本俊雄 水野隆徳
------	--	-------	---	-------	--

6. 専任教職員の状況（平成22年5月1日現在）

※学長・副学長・校長・園長・副校長・教頭は除く。

学校名	教授	准教授	講師	助教	助手	教諭	助教諭	職員	計
奈良産業大学	31	16	6	1	0	0	0	24	78
奈良文化女子短期大学	6	3	5	0	0	0	0	9	23
奈良文化高等学校	0	0	0	0	0	41	0	7	48
奈良学園高等学校	0	0	0	0	0	35	0	9	44
奈良学園中学校	0	0	0	0	0	28	0	4	32
奈良学園登美ヶ丘高等学校	0	0	1	0	0	9	0	2	12
奈良学園登美ヶ丘中学校	0	0	0	0	0	17	1	2	20
奈良学園小学校	0	0	0	0	0	21	0	2	23
奈良学園幼稚園	0	0	1	0	0	8	0	1	10
奈良文化女子短期大学付属幼稚園	0	0	3	0	0	6	0	4	13
法人部門	0	0	0	0	0	0	0	49	49
合 計	37	19	16	1	0	165	1	113	352

※初等中等教育の常勤講師等も講師欄に記載した。

## 7. 学校別の土地及び建物（平成22年5月1日現在）

### 【土地面積】

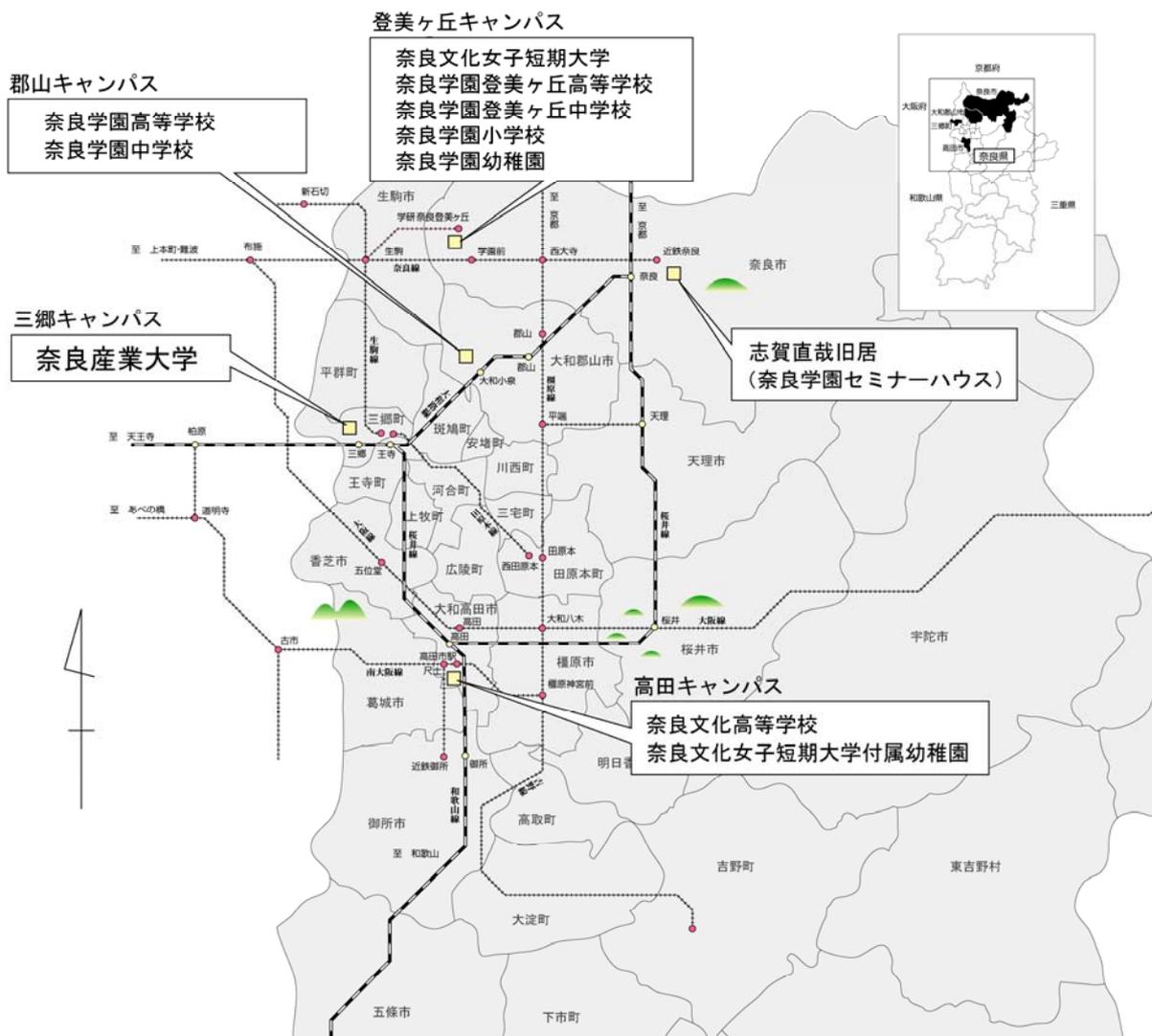
奈良産業大学	203,745 m <sup>2</sup>
奈良文化女子短期大学	38,860 m <sup>2</sup>
奈良文化高等学校	55,665 m <sup>2</sup>
奈良学園中学校・高等学校	96,452 m <sup>2</sup>
奈良学園登美ヶ丘高等学校	12,136 m <sup>2</sup>
奈良学園登美ヶ丘中学校	10,795 m <sup>2</sup>
奈良学園小学校	5,781 m <sup>2</sup>
奈良学園幼稚園	1,243 m <sup>2</sup>
奈良文化女子短期大学附属幼稚園	4,564 m <sup>2</sup>

### 【建物面積】

奈良産業大学	32,416 m <sup>2</sup>
奈良文化女子短期大学	16,883 m <sup>2</sup>
奈良文化高等学校	15,236 m <sup>2</sup>
奈良学園中学校・高等学校	16,801 m <sup>2</sup>
奈良学園登美ヶ丘高等学校	10,366 m <sup>2</sup>
奈良学園登美ヶ丘中学校	10,566 m <sup>2</sup>
奈良学園小学校	9,412 m <sup>2</sup>
奈良学園幼稚園	2,234 m <sup>2</sup>
奈良文化女子短期大学附属幼稚園	1,452 m <sup>2</sup>

※登美ヶ丘については、上記以外に32,436m<sup>2</sup>の共有グラウンド等がある。

## 8. 全体地図（奈良学園キャンパス位置図）



### Ⅲ. 事業の概要（平成 22 年度）

#### 1. ハイライト

##### （1）三郷キャンパス（奈良産業大学）－カリキュラムと施設の改善－

ビジネス学部では、経営、マーケティング、会計、公務員の4つのコースを設け、履修モデルによる卒業後の進路を明確にしたカリキュラム改訂を行った。さらに、専門職の養成を目指して、税理士、消費生活アドバイザー、司法書士、行政書士の職に就くための資格取得講座や、公務員試験に特化した講座を設置した。



情報学部では、システム、メディアの2つのコースを設けた。システムコースは、製作や実験を課題とする科目体系とし、メディアコースでは、立体グラフィックスやアニメーションの制作技術に加え、映像の撮影や編集・加工等の映像技術の修得を目指す科目を充実した。これらに伴い、両学部が重点に置いた実学教育であるプロジェクト演習や情報学ゼミのための演習室を、研究室の近くに整備するとともに、10号館には新しいスタジオ教室を設置した。また、学内のトイレも改修し、教育環境の改善を図った。

##### （2）高田キャンパス（奈良文化高等学校）－新しい校舎と寮が完成－

奈良学園発祥の地、高田キャンパスに新しい校舎と寮が完成した。建築にあたっては、生徒たちもキャンパスリニューアルに夢を託した「All New NB実行委員会」を立ち上げ、学び舎づくりに参加した。この結果、校舎内8か所には、実行委員会が中心になり、生徒全員が参加して制作した、グラフィックアートが掲げられている。このように学校と生徒が連携したことにより、奈良らしい外観に高機能・高耐震性を組み込んだ新校舎「みやび棟」を創ることができた。また、ワンルームマンションタイプで室料不要の「清優寮」を建築することで、より広域からの生徒が入学できるようになった。



さらに、クラブ活動の強化にも配慮し、23年度に利便性の高い合宿所も併設する予定である。この美しく安全な新校舎で、生徒達の心身を豊かに育み、生徒達とともに伝統の上にも新しいイメージを築いていく。

(3) 郡山キャンパス（奈良学園中学校・高等学校）—第2期建て替え工事が進捗—

奈良学園中学校・高等学校では、教員・生徒・建築設計者が共同で新校舎の建築を計画する「スクールプロジェクト」を平成19年度から進めてきたが、その結果、2010日本建築学会教育賞（社会貢献）を受賞した。タイトルは「生徒参加型の校舎建替えプログラムの立案とその実践～「奈良学園スクールプロジェクト」の1000日～」



であり、「建築のいくつものプロセスを、魅力ある充実した教育プログラムとしてつくりあげ、また、その実践を通して、建築教育を学校教育に取り入れることの多面的意義を示すことによって今後の建築教育の発展に大きな貢献をした」と評価された。

22年度は、その一環として第2期建て替え工事が進捗し新格技場「青雲館」が完成した。また、新体育館の工事も進捗し、平成23年6月に竣工予定である。

(4) 登美ヶ丘キャンパス（奈良学園幼稚園・小学校、奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校）—充実と完成—

3+4-4-4制を謳う奈良学園登美ヶ丘に育友会館が3月に竣工した。幼稚園から高等学校までの4校種の保護者で構成される育友会「登翔会」の活動や校種を超えた保護者の交流、また、学校と保護者の連携の場として、この会館を活用する。2階建ての育友会館には、4つの会議室があり、可動間仕切りを採用して、大人数での使用にも対応できるようになっている。1階部分には、駐車場と通じるレストルームを設け、幼稚園児や小学生の送迎時等に保護者が利用できるように配慮した。



園児・児童・生徒の教育環境を整えるため、幼稚園園庭と総合グラウンドの芝生化に取り組んだ。園児、児童、生徒、短大学生、保護者、教職員の手で芝生の苗を植え、2ヶ月間の養生により見事に芝生化することができた。他に教育環境の整備として、Y棟屋上に天体観測ドームを設け、コンピュータ制御で動作する15cm屈折望遠鏡を整備した。

(5) 登美ヶ丘キャンパス（奈良文化女子短期大学）—地域交流の進化—

地域交流の一環として、子育て支援事業「ちびっこ広場」や「サタデーオンラインステージ」を開催してきた。22年度は、本学内に「奈良市つどいの広場ぶんたん」を開設して、子育て親子の交流・子育てに関する相談・地域の子育て関連情報の提供・子育てと子育て支援に関する講習会の実施に取り組んだ。



(6) 高田キャンパス（奈良文化女子短期大学附属幼稚園）—通園バスを一新—

より安心・安全に園バスによる送迎を安定して行うため、その運行を奈良交通に業務委託した。また、送迎区域に適切なバスのサイズを検討し、送迎バス2台を買い替えた。

教学面においては、近隣の新庄北小学校附属幼稚園と連携して、合同行事「フレンドシップ」を開催した。太鼓の演奏を題材とした両園の交流行事

で、園児はもちろん、教員交流の機会でもあり、私立と公立の違いや特色を互いに学んでいる。



(7) 志賀直哉旧居（奈良学園セミナーハウス）—各種講座の開設—

志賀直哉旧居では、一般の方を対象として「奈良再発見」「志賀直哉旧居で読む古典シリーズⅠ」などの公開講座を開設した。志賀直哉、奈良、文学にちなむ各講座は盛況で、他府県など遠方からの参加者も多く、幅広い年齢層の方が熱心に受講している。また、「観月会」等の催しも行った。観月会



では学園内各校の茶道部の応援により立礼席による点茶のサービスも行い、近隣の方や観光客にも好評であった。

## 2. 設置校の主な事業と進捗状況

### (1) 奈良産業大学

#### 【取組みの重点】 —スポーツ振興、国際交流、地域連携—

・スポーツ振興では、スポーツ交流会館に設置したトレーニング機器を使用するための講習会を開催し、学生のスポーツクラブでの活躍を支援している。硬式野球部は近畿学生野球リーグ戦で30回目のリーグ優勝を果たし、陸上競技部は男女とも全国大学駅伝に出場するまでに成長した。

・国際交流では、留学生の受け入れを進めると共に、学生間の交流を進めた。短期留学生を中国、香港、台湾から受入れたほか、カンボジアメコン大学に本学学生5名を相互留学交流として短期研修派遣した。

・地域連携では、恒例となった王寺町りーべるカレッジの公開講座を10回開催し、平城遷都1300年祭記念特別講演を継続開催した。さらに、2年目となる奈良駅前での公開講座を3回開催した。なお、大学キャンパス開放イベントも継続実施し、お花見に加え、夏休み花火イベントでは、近隣の小中学生をはじめとして多くの地域からの参加者に好評を得た。

#### 【教育環境】

・建学の精神に掲げる「実践力」を養成するため実施しているプロジェクト演習においては、橿原市との提携で進めていた藤原京CG再現プロジェクトが完成し好評を博した。なお、次の題材として郡山城を取り上げ、大和郡山市と提携して、学生が中心となり郡山城のCG再現を進める予定である。カフェ経営プロジェクトは定着し、近隣住民に認知され、良い実習環境となっている。地域連携プロジェクトでは、栽培した菜の花から油を抽出して大学祭で販売する試みを行った。

・23年度からのカリキュラムを改訂し、ビジネス学部では、専門職養成プログラムを設置した。アドバイザーとコーディネーターの配置による資格取得の支援体制を設け、税理士資格取得を皮切りに様々な資格取得を目指す学生への教育が開始された。情報学部では、理系科目を実習する実験室の整備を行い、新しいスタジオ設備を配置した教室棟を増築した。

#### 【学生支援】

・学生支援センターを健康相談とカウンセリングの窓口とし、臨床心理士を常駐配置したことにより、そこに学生が集まるようになってきた。このように、各事務局セクションを大学会館の食堂近くに集約して、各事務局セクションと学生の連絡を取りやすくした。学業から就職までの大学生活全般の支援を一元化したことにより、学生の支援に成果をあげている。

・学生間の交流が進んだことで、留学生とのコミュニケーションが深化され、インターンシップ参加や就職ガイダンス参加へのモチベーション向上に繋がった。

#### 【学生募集】

・5校と連携協定、37校と遠隔地協定を締結し、高等学校との繋がりを強化した。また、広報推進本部を立ち上げ、教職員全員による高校訪問や出張講義による学生募集に尽力した。次年度以降もより活発な広報活動を進める。

#### 【社会連携・地域貢献】

・今年度新たに設置した地域公共学総合研究所では、年度末に研究経過報告会を開催し、地域公共学総合研究所年報第1集を発行した。

#### 【環境整備】

・前述の情報学部棟の増築・改築に加え、情報教育機器をリニューアルし、プレゼンテーシ

ョンやディスカッションに対応する少人数教室を設置した。今年度から利用している学生の出席管理システムと学生カルテ機能により、学生個々の現況を把握することで、きめ細やかな教育が可能となり、教職員間での学生情報の管理と共有化を実現できている。さらに、次年度は、体育館の改修を予定しており、継続的な施設充実を図っている。

## (2) 奈良文化女子短期大学

### 【取組の重点】—第三者評価機関別評価—

・財団法人短期大学基準協会の第三者評価を受け、「適格」の認定を得たことが、今年度の成果である。第三者評価をクリアする際に全教職員の団結が大きな支えとなった。

### 【教育環境】

- ・学外実習時などに対応した社会人マナー修得の「ソーシャルスキル演習Ⅱ」を開講した。
- ・入学前教育を充実させ、初年次教育に繋げるために「ウェルカムノート」を1月に入学予定者に送付し、3月の「プレアドミッション」実施日に提出させ、教員が点検し、コメント記入した上で返送した。
- ・長期履修学生制度を今年度から導入し、入学生は順調に履修している。

### 【社会連携・地域貢献】

・公開講座を充実した。親子シリーズ5講座、雅楽教室、大和路狛犬探訪、ぶんたんおもしろ講座、教職員のための講座を開講し好評であった。子育て支援では、3つの企画を実施した。子育て等に関する相談は、親と子の相談室「ひまわり」、毎月第2・第4木曜日開催の「ちびっこ広場」、今年度10月から奈良市つどいの広場事業を受諾した「ぶんたん」があり、約3000名の利用者があった。他には毎月第3土曜日に実施している「サタデーオンステージ」が2年目を迎え、県内の高校吹奏楽部もたくさん出演し、地域文化の場として定着してきた。

### 【学生募集】

・教職員が危機感を持って募集活動に臨み、全員による高校訪問やオープンキャンパスへの取組、高大連携等による奨学金の充実、遠隔地への活動、長期履修学生制度の浸透等があり、昨年度から飛躍的に回復し定員の約8割を確保することができた。

### 【環境整備・他】

- ・1号館・アリーナの空調設備改善と図書館蔵書の移動整理を完了した。
- ・その他、同窓生との連携強化のため、学園祭に第4回ホームカミングデーを実施、同時に福祉学科同窓会を開催した。また、2月には同窓会まほろばの「九州支部発足会」があり、懐かしい卒業生たちが宮崎の地に集まった。

## (3) 奈良文化高等学校

### 【教育環境】

・生徒一人ひとりが目標を明確にして学べるよう、平成23年度から2類型6コース制（Ⅰ類—総合進学、保育、福祉、看護進学／Ⅱ類—特進、スポーツ特進）に改めるべくカリキュラムの改編を行った。特に、特進コースは難関私立大学文系に照準を定め、英語・国語・日本史の授業時間数を大幅に増やした。補習についても、大学入試に直結する外部講師による指導体制を確立した。また系列の短期大学の出前授業を受けるなど高大連携を推進した。さらに制服・体操服・靴・靴・上履のリニューアルを行い、イメージの一新に努めた。

#### 【社会連携・地域貢献】

・地域貢献の一環として、近隣中学校を対象に吹奏楽部のリーダー講習会を実施した。関西で活躍するプロの演奏家を講師に招き、パート別練習・合奏練習を行った。

・奈良学園で所蔵していた、竹内古墳や一楽古墳から出土した考古学コレクション約 5000 点を、葛城市歴史博物館へ一括寄託した。博物館の調査の結果、遺物の中には全国で 2 例目の出土であり、薄く精巧に作られた正倉院宝物級の貴重な銅わんが含まれていたことが判明した。

#### 【生徒募集】

・大阪・京都地域の私学無償化に対抗すべく、特進コースで奨学金による実質無償化を実施した。また寮の建築を視野に、和歌山県、三重県、兵庫県、滋賀県など遠隔地へ募集資料を送付した。さらに特進コースの募集力向上のため、吹奏楽部・ダンス部・剣道部に指導者を招き、楽器などの備品を充実させた。

#### 【環境整備】

・校舎・寮・食堂の新築、および静ホール・体育館・奏ホール・グランド等の改修工事を行った。新校舎は 4 階建てで、半世紀近く育った木々を内包し、自然と調和のとれる建物とした。特徴としては、図書室の隣に情報教室を設け、壁で仕切らずに一体的に活用できるよう工夫し、また、調理室の隣に試食室を設けた。寮は 5 階建て、ワンルーム形式の完全個室とし、警備員を配置、セキュリティーを高めた。食堂は、生徒・学生に無料のサラダバーを設置した。静ホールでは空調設備を施し、入学式や卒業式、また戴帽式などの行事が快適に行えるようにした。校舎建築に合わせて、学園が所有する竹内遺跡の遺物（鏡、土器、矢じりなど）を校舎の 1 階に展示し、生徒は無論、保護者や来校者にも公開できるようにした。竣工式には来賓に図録を配布した。

### (4) 奈良学園中学校・高等学校

#### 【教育環境】

・12haの校地内の学校林に「森の教室」を整備し、おもに中学1,2年生を対象としたシイタケ栽培等の環境教育実習を行っている。この環境研修には、本校卒業生の他、和歌山大学、大阪経済法科大学の学生も参加し、日本ビオトープ管理士会の協力もいただいている。（平成21年度に全国学校ビオトープコンクールの金賞を受賞した。）

・国際理解教育として、昨年度に引き続き、高校1年生の希望者によるオーストラリアへの約2週間の海外短期研修プログラムを夏休休暇中に実施した。平成22年度の参加者は37名であり、研修先はアデレード近郊のInvestigator Collegeと、Southern Vales Christian Collegeの2校である。参加した生徒たちも、語学力の向上はもちろん、現地での体験やホストファミリーとの交流を通じて、楽しく異文化に触れることができた。来年度以降も引き続き実施する予定である。

#### 【環境整備】

・新校舎の竣工と併行し、環境教育実践の場として「ホテル・里山再生計画」を策定し、校内を流れる沢や学校林を整備した。こうした環境整備の結果、本校生徒への環境教育だけでなく、地域との交流も広げることができた。また、7月に、奈良県が主催する山と森林の月間協賛行事「里山の森を育てるクラブ～入門編～」の会場としてこれを利用し、秋冬には日本樹木医会、奈良県地球温暖化防止活動推進センター、日本ビオトープ

管理士会の研修会場となった。今後も「環境教育発信拠点校」として、より一層の地域交流を推し進める予定である。

- ・青雲寮の跡地に新格技場「青雲館」を建設した。これは、平成24年度から実施される中学校保健体育における武道の必修化に備えた整備でもある。また、体育の授業だけでなく、柔道、剣道などクラブ活動に勤しむ環境も整えた。

- ・新体育館は、平成23年6月の完成に向けて現在建設中であり、完成後は体育の授業のほか、式典や行事などにも大いに活用していく予定である。

- ・登下校時における生徒の安全確保の観点から、通学バスの増便を行った。登下校時のバスの本数をほぼ倍としたほか、日曜祝日や夏期休暇等の長期休暇中にも運行させることにより、安全性の向上とともに利便性も大いに向上したとの評価をいただいている。

#### 【科学教育】

- ・サイエンス館では、理科の実験授業の他、生徒の科学に対する好奇心を育成するために、様々な特別授業をおこなっている。また、「サイエンス出前講義」として、大学の研究者をのべ6回招聘し、中学校高等学校の学習内容に関連付けた内容の講義をしていただいた。この取り組みは来年度以降も継続する予定である。

### (5) 奈良学園幼稚園・小学校 奈良学園登美ヶ丘中学校・高等学校

#### 【教育環境】

- ・平成 22 年 4 月に奈良学園幼稚園及び奈良学園登美ヶ丘中学校に最高学年が進級し、3+4-4+4 の 12 年一貫教育システムの基礎となる体制に一步近づいた。

- ・小・中・高と繋がる学びの連続を図るための具体的カリキュラムの完成作業を進め、今後はそれを全体的に共有すること、学校関係者に提示できる形にすることが課題となっている。合同学習発表会・文化祭及び合同運動会については、委員会を組織し実施すると共に、次年度に向けての検討を行い計画を策定した。宿泊行事等については学内で検討を行い方向性を示した。

- ・中高では、引き続き、近畿大学農学部食品栄養学科による食育指導、奈良先端科学技術大学院大学情報科学研究科等による理科実習、(財)地球環境産業技術研究機構(RITE)木村邦夫氏による地球温暖化についての講演を実施したほか、「登美ヶ丘講演」として、6月に外務省特命全権大使の吉川元偉氏、11月に日本テレビ放送網報道局の笛吹雅子氏、2月に第51次南極観測隊に参加した県立奈良高校教諭の森田好博氏を講師に招いた講演を開催し、この折には地域の方にも参加を呼びかけた。同様のことを11月に開催した小中高合同芸術鑑賞会「テレマンアンサンブル演奏会」の際にも行った。

#### 【特色を踏まえた教育力の強化】

- ・12年一貫教育を意識した先進的な取組校としての教員研修を行った。6月に久保信代氏(関西福祉科学大学講師)による「ちょっと気になる子どもたちー発達から見る理解と対応ー」について、9月に内田伸子氏(お茶の水大学大学院教授)による「考える力を育てる『ことば』の教育」について、11月に櫻井嘉彦氏(県立三室病院小児科部長)による「小児の食物アレルギーーアナフィラキシーを知り、対応するー」について、2月に鈴木直人氏(同志社大学教授)による「児童・生徒の現状を心理学から考える」について、3月に井坂行男氏(大阪教育大学准教授)による「特別なニーズのある子どもの教育」について、それぞれ子どもの発達段階や心身の成長に応じた教育について研修を行った。

・幼稚園においては、上記研修に加え1月と2月に善野八千子氏（奈良文化女子短期大学教授）による「発達や学びの連続性」について園内研修を実施した。

・1学期に校種単位での防犯研修（奈良西警察署）、6月に幼小中高合同火災避難訓練（奈良西消防署）、7月に教員対象 AED（普通救命）講習（奈良西消防署）、1月に合同地震避難訓練（奈良西消防署）など、災害等に対する安全管理についての研修も実施した。

#### 【学校評価】

・学校内評価のためのアンケート調査を行った。幼稚園では行事ごとのアンケート調査結果をまとめて、保護者に配布した。小学校では1・2学期に実施したアンケート調査に表れた質問事項をまとめ、2月末に校長が、3月初めに副校長がそれぞれ保護者会で回答した。中高では7月と12月の三者懇談時に実施し、それぞれの結果と回答を9月と3月に保護者に配布した。

#### 【環境整備】

・6月に園児・児童・生徒、保護者及び教職員が総合グラウンドの芝苗を移植し、9月にその完成記念式を開催した。また、幼稚園の園庭も芝生化を行った。

・Y棟屋上に天体観測ドームを設置し、11月から3月にかけて学内、学外の希望者に対して観望会を開催した。

・3月に育友会館が完成した。

### （6）奈良文化女子短期大学附属幼稚園

#### 【教育環境】

・「みどりの幼稚園」プロジェクトを特色ある教育と位置づけ、その充実を図った。

・国立曽爾青少年自然の家との共同開発プログラム「親子で楽しむ曽爾合宿」の実践や「親子ネイチャーゲーム大会」では、保護者にも成果を実感していただいた。

・「経験の機会」を広げるキッズプログラムを導入し、「イングリッシュ」・「ミュージック」・「サイエンス」・「ポエム」・「グローバル」の5つのラボを開いた。園児が楽しみながら取り組めるように内容を検討し、全学年全員参加のラボを定着させた。

・和太鼓を教材とした活動も本格的に開始した。地域行事や短大フェスティバル等の園外での発表の場も得、意欲的に取り組むことができた。また、この和太鼓の活動を通して始まった近隣の公立幼稚園との交流は、「みどりの幼稚園」の中でも展開し、定期的な交流会となった。

#### 【環境整備】

・年度途中から日常清掃のほか定期清掃を外部委託し、「清潔できれい」な幼稚園を維持することに務めた。

・平成23年度のバス運行に向け、送迎を効率よく行うのに適した新バスを2台購入し、その運行を奈良交通に業務委託した。

#### 【園児募集】

・入園説明会と給食試食会の同時開催、個別対応による丁寧な説明、また毎月開催の体験入園の周知と2歳児保育の導入により園児数が増加している。

## IV. 財務の概要

### 1. 最近の投資と資金運用の状況

奈良学園では、各キャンパスの施設設備に対して、平成 18 年度から大規模な投資を行っており、その内容は次の通りである。

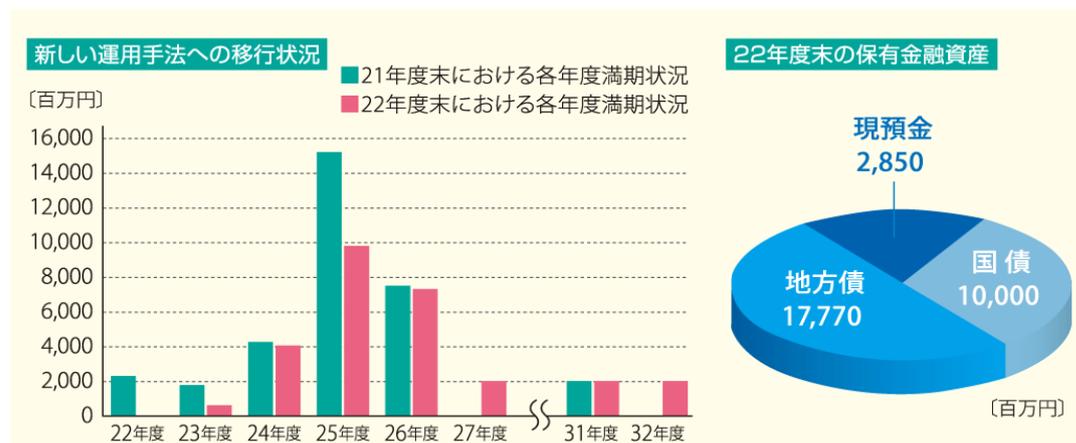
1. 登美ヶ丘キャンパスの新規開発
2. 郡山キャンパスの全面建替え
3. 高田キャンパスの建替え・リニューアルと再開発に対する準備
4. 三郷キャンパスのリニューアル

この結果、施設設備の面での競争力が強化されるとともに、学園内に耐震上問題となる建物はなくなった。

下表に、平成 18 年度から 22 年度までの投資実績をあげた上で、22 年度末時点での現金・預金と有価証券の残高を示し、23 年度以降の投資予定を示している。大規模な投資は平成 23 年度で終了する予定であるが、登美ヶ丘の大学ゾーンと高田の再開発に小規模ではあるが追加投資（未定につき未計上）の可能性を残している。



これらの開発は全て自己資金により賄う一方で、これまで保有する有価証券は安全確実な運用に努めてきた。平成 20 年 9 月のリーマン・ショックを境に、多額の損失を計上する学校法人が少なからず出る中で、奈良学園は従来からの国債・地方債による安全確実な運用の強化を目指し、その満期がひと時に集中しないような、一定間隔で満期日が訪れる等額分散投資への移行を始めている。これは、受取利息の変動を極力少なくするための手法の一つである。



## 2. 平成 22 年度決算の概要

### (1) 資金収支の概要

<p>収入の部合計から前年度繰越支払資金を減じた当年度資金収入は 14,766 百万円、支出の部合計から次年度繰越支払資金を減じた当年度資金支出は 13,389 百万円となり、次年度繰越支払資金は 2,940 百万円で前年度に比べ 1,377 百万円増加した。</p> <p>当年度は、高田キャンパスの校舎改築、郡山キャンパスの格技場建替、登美ヶ丘キャンパスの育友会館建設、三郷キャンパスの校舎整備等の事業を行った結果、施設関係支出及び設備関係支出で、あわせて 3,937 百万円となり、前年度に比べ 2,769 百万円減少した。</p> <p>予算と比較すると、当年度資金支出は施設関係支出・設備関係支出の圧縮等により、234 百万円の減少となった。</p>
--

#### 平成 22 年度 資金収支計算書

(平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで)

(単位：円)

収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金収入	2,307,432,000	2,348,154,907	△40,722,907
手数料収入	57,906,000	56,672,110	1,233,890
寄付金収入	13,413,000	13,079,379	333,621
補助金収入	848,809,000	906,617,837	△57,808,837
国庫補助金収入	34,461,000	53,327,000	△18,866,000
地方公共団体補助金収入	814,025,000	852,942,837	△38,917,837
その他補助金収入	323,000	348,000	△25,000
資産運用収入	383,105,000	404,043,785	△20,938,785
資産売却収入	9,260,000,000	9,325,927,000	△65,927,000
事業収入	97,836,000	94,305,740	3,530,260
雑収入	50,244,000	110,327,221	△60,083,221
前受金収入	319,947,000	332,561,930	△12,614,930
その他の収入	1,342,738,000	1,597,361,409	△254,623,409
資金収入調整勘定	△397,952,000	△422,812,477	24,860,477
前年度繰越支払資金	1,563,121,484	1,563,121,484	
収入の部合計	15,846,599,484	16,329,360,325	△482,760,841

支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費支出	3,432,429,000	3,336,676,294	95,752,706
教育研究経費支出	1,132,572,000	1,039,765,813	92,806,187
管理経費支出	387,694,000	380,137,857	7,556,143
施設関係支出	3,654,720,000	3,448,492,138	206,227,862
設備関係支出	670,032,000	488,630,001	181,401,999
資産運用支出	4,000,000,000	3,998,540,000	1,460,000
その他の支出	1,803,876,000	2,069,617,882	△265,741,882
[予備費]	( 0 )		
	20,000,000		20,000,000
資金支出調整勘定	△1,477,476,000	△1,372,826,227	△104,649,773
次年度繰越支払資金	2,222,752,484	2,940,326,567	△717,574,083
支出の部合計	15,846,599,484	16,329,360,325	△482,760,841

## (2) 消費収支の概要

当年度帰属収入は 3,994 百万円で基本金組入額 10,832 百万円を減じた消費収入は△6,837 百万円となった。一方、消費支出は 6,292 百万円を計上し、当年度の消費収支差額は 13,129 百万円の支出超過となった。主要因は、学生・生徒に対する奨学金支給のための基金を設定し第 3 号基本金に 11,000 百万円の組入れを行ったことと、高田・郡山両キャンパスの校舎等建替に伴い建物解体を行った結果、607 百万円の資産処分差額を計上したことにある。

予算と比較すると、帰属収入は学生生徒納付金及び地方公共団体からの補助金の増加等により、174 百万円の増収となった。消費支出は資産処分差額が増加したものの人件費・教育研究経費・管理経費の減少等により、29 百万円の削減となった。

### 平成 22 年度 消費収支計算書

(平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで)

(単位：円)

消費収入の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
学生生徒等納付金	2,307,432,000	2,348,154,907	△40,722,907
手数料	57,906,000	56,672,110	1,233,890
寄付金	13,413,000	16,344,050	△2,931,050
補助金	848,809,000	906,617,837	△57,808,837
国庫補助金	34,461,000	53,327,000	△18,866,000
地方公共団体補助金	814,025,000	852,942,837	△38,917,837
その他補助金	323,000	348,000	△25,000
資産運用収入	383,105,000	404,043,785	△20,938,785
資産売却差額	90,000,000	112,590,600	△22,590,600
事業収入	97,836,000	94,305,740	3,530,260
雑収入	22,024,000	56,245,642	△34,221,642
帰属収入合計	3,820,525,000	3,994,974,671	△172,449,671
基本金組入額合計	△13,100,000,000	△10,832,340,313	△2,267,659,687
消費収入の部合計	△9,279,475,000	△6,837,365,642	△2,442,109,358

消費支出の部			
科 目	予 算	決 算	差 異
人件費	3,506,304,000	3,327,977,506	178,326,494
教育研究経費	1,993,152,000	1,897,817,510	95,334,490
管理経費	458,895,000	439,052,191	19,842,809
資産処分差額	342,140,000	627,603,376	△285,463,376
徴収不能引当金繰入額等	1,850,000	0	1,850,000
[予備費]	( 0 )		
	20,000,000		20,000,000
消費支出の部合計	6,322,341,000	6,292,450,583	29,890,417
当年度消費支出超過額	15,601,816,000	13,129,816,225	
前年度繰越消費収入超過額	19,591,394,123	19,591,394,123	
基本金取崩額	0	0	
翌年度繰越消費収入超過額	3,989,578,123	6,461,577,898	

### (3) 貸借対照表の概要

当年度末の資産総額は78,177百万円で、前年度末に比べ1,553百万円の減少となった。有形固定資産は高田キャンパスの校舎改築、郡山キャンパスの格技場建替等により2,413百万円増加した。その他の固定資産では第3号基本金引当特定資産を創設し、有価証券から11,000百万円振替えた。また、第2号基本金引当特定資産を計画実行により1,730百万円取崩した結果、その他固定資産が2,538百万円減少し、固定資産合計では125百万円減少した。流動資産合計は1,428百万円減少した。

総資金では、負債の合計が2,620百万円で前年度末に比べ744百万円増加した。また、基本金及び累積の消費収支差額の合計である自己資金は前年度末比2,297百万円減少の75,557百万円となった。

平成22年度 貸借対照表  
(平成23年3月31日)

(単位：円)

資産の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定資産	69,439,659,577	69,564,893,503	△125,233,926
有形固定資産	47,276,471,051	44,863,010,061	2,413,460,990
土地	22,559,220,603	22,559,220,603	0
建物	19,934,144,186	18,076,477,935	1,857,666,251
その他の有形固定資産	4,783,106,262	4,227,311,523	555,794,739
その他の固定資産	22,163,188,526	24,701,883,442	△2,538,694,916
流動資産	8,737,761,408	10,165,818,082	△1,428,056,674
現金預金	2,940,326,567	1,563,121,484	1,377,205,083
その他の流動資産	5,797,434,841	8,602,696,598	△2,805,261,757
資産の部合計	78,177,420,985	79,730,711,585	△1,553,290,600
負債の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
固定負債	854,979,968	809,597,177	45,382,791
長期借入金	0	0	0
その他の固定負債	854,979,968	809,597,177	45,382,791
流動負債	1,765,078,837	1,066,276,316	698,802,521
短期借入金	0	0	0
その他の流動負債	1,765,078,837	1,066,276,316	698,802,521
負債の部合計	2,620,058,805	1,875,873,493	744,185,312
基本金の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
第1号基本金	52,730,195,961	51,290,747,694	1,439,448,267
第2号基本金	4,908,460,160	6,639,160,689	△1,730,700,529
第3号基本金	11,000,000,000	0	11,000,000,000
第4号基本金	457,128,161	333,535,586	123,592,575
基本金の部合計	69,095,784,282	58,263,443,969	10,832,340,313
消費収支差額の部			
科 目	本年度末	前年度末	増 減
翌年度繰越消費収入超過額	6,461,577,898	19,591,394,123	△13,129,816,225
消費収支差額の部合計	6,461,577,898	19,591,394,123	△13,129,816,225
科 目	本年度末	前年度末	増 減
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	78,177,420,985	79,730,711,585	△1,553,290,600

## (4) 平成22年度 財産目録 (概要)

財 産 目 録

I 資産総額	78,177,420,985 円
内 基本財産	47,247,227,490 円
運用財産	30,930,193,495 円
収益事業用財産	0 円
II 負債総額	2,620,058,805 円
III 正味財産	75,557,362,180 円

区 分	金 額
資産額	
1 基本財産	
土地	477,739.68 m <sup>2</sup> 22,522,280,903 円
建物	121,742.51 m <sup>2</sup> 19,910,735,570 円
図書	340,750 冊 3,269 点 1,098,643,004 円
教具・校具・備品	33,552 点 1,010,767,769 円
その他	2,704,800,244 円
2 運用財産	
現金預金	2,940,326,567 円
その他	27,989,866,928 円
3 収益事業用財産	0 円
資 産 総 額	78,177,420,985 円
負債額	
1 固定負債	
長期借入金	0 円
その他	854,979,968 円
2 流動負債	
短期借入金	0 円
その他	1,765,078,837 円
負 債 総 額	2,620,058,805 円
正味財産 (資産総額－負債総額)	75,557,362,180 円

(5) 監査報告書

監査報告書

平成 23 年 5 月 16 日

学校法人 奈良学園  
理 事 会 御中  
評議員会 御中

学校法人 奈良学園

常勤監事 結城 義久 ⑩

監 事 村田 智之 ⑩

私たちは、私立学校法第 37 条第 3 項に基づく監査報告を行うため、学校法人奈良学園の寄附行為第 10 条の規定に従い、学校法人奈良学園の平成 22 年度(平成 22 年 4 月 1 日から平成 23 年 3 月 31 日まで)の、学校法人の業務及び財産の状況について監査を行った。

私たちは監査にあたり、理事会及び評議員会に出席するほか、理事等から業務の執行状況を聴取し、重要な決裁書類等を閲覧し、会計監査人と連携して学校法人の業務及び財産の状況を監査した。

監査の結果、学校法人の業務及び財産に関し、不正の行為又は法令若しくは寄附行為に違反する重大な事実はなく、計算書類は平成 22 年度の収支の状況及び平成 22 年度末の財産の状況を適正に表示しているものと認める。

以 上